

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25503

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇日常の授業の中で学年の発達段階に応じた話し合い活動を意識的に取り入れることで、関わり合いながら学習に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>◇家庭と連携しながら、家庭学習への取組を定着させていくことで、授業内容の</p> <p>◇1人1台端末を使用することで、楽しく学習したり、意欲的に学習したりしている児童が多いという実態がある。</p>	<p>◇文章を適切に読み取ったり、読み取ったことを基に自分の考えを構築したりする力や、学習したことを活用して考えることについて、消極的な傾向がある。</p> <p>◇家庭学習への取組が定着している一方で、児童、保護者アンケートから意欲的に取り組んでいる児童は多くないという実態がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇児童質問紙の回答状況等から、本校の児童は自分と違う意見について考えることや、話し合うことで自分の考えを深め、新たな考え方に気付くことについて「楽しい」と感じている一方で、自己肯定感の低い児童も少なくないのが実態である。様々な教育活動の中で、教師が肯定的に価値付けたり、児童が互いを認め合う場を設定したりすることで、自分のよさや可能性について子どもたち自身がしっかりと認識し、他者を認め合う姿を目指していく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

互いに認め合い、高め合う力・自ら進んで考え、行動する力

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが見通しをもてる単元構成 単元で習得した力を、次の学習や生活に生かす、連続性をもった学びの展開 ICT活用の工夫（半具体物の操作、調べ活動） 課題に対し、一人一人が自分の考えを確実にもてる場の設定 一人一人の考えや思いを共有する場の設定 ICT活用の工夫（子どもの考えの可視化、見取り） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇人とのつながりを広げようとする態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> 互いを大切にする集団づくり（プラスのまほう） 異学年交流「イチイタイム」、委員会、クラブ活動の工夫 全校朝会や委員会等、全校で取り組む活動の実施 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 <ul style="list-style-type: none"> 2期4節にわけた生活のめあての提示と、その振り返り 児童アンケートの実施→1人1台端末の活用 ◇パートナー校との取組 <ul style="list-style-type: none"> 「子どもの意見を聞く会」での話し合いをもとにした諸活動

〈本プログラムの実行に向けて〉

